

- (1) 題材名：いろいろな音色を感じとろう
- (2) 教材名：『おかしなすきな まほう使い』 音づくり
- (3) 本時のねらい：イメージに合った音の出し方や組み合わせ方を工夫して、「まほうをかける音」をつくることことができる。

主事招聘校内研修である。授業者は辺土名小で初任者として赴任して3年目である。音楽の授業でどのように「学び合い」を仕組むか。授業者の挑戦である。

本日は授業後の協議会も、「学びの共同体」が提案する形式で進められた。授業においてグループ活動に入ると担当の同僚が子ども達の「学び合い」の様子を観察し、協議会で子ども達の「学び」について語り合う。協議会においても先生方もまだ不慣れであるが、それでいい。「学びの共同体」への挑戦は始まったばかりである。疑念や不安をみんなで共有し、教師互いが授業者の提案授業から少しずつ成長することを目的とする。

わたしも、小学校の音楽の授業は初めてである。音楽の授業を見せていただいたことに素直に感謝である。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。(時間は時刻)

【授業前の写真】



にぎやかで、「がんばるぞ〜」が聞こえてきそうな子ども達である。

この写真1枚からも個性がうかがえますね。教室は多様な人間の共同体です。目指すは、教師にとって最高の授業ではなく、この子たちにとって安心して楽しく深い授業を目指してほしい。

【授業導入】13:50〜



授業者のピアノのリズムで子ども達の体が自然に動く。音楽は私なりに感じるモノである。感じ方は様々でいい。写真①、本時の授業の進め方の確認。写真②、教師に向けられる子ども達の眼差しである。この期待に応えられる活動を準備したい。



【提示資料の工夫】14:00〜

T先生の提示資料への「こだわり」に感心する。学年に合わせて「かわいい」である。写真にはないが、教室の掲示物も実に整理整頓がいきとどきロッカーの整理にも教師の「こだわり」がうかがえた。

【グループ活動へ】14:05〜

教師の説明の後各グループ毎に分かれて「音づくり」に入る。みんなワクワク気分だ！



【支え合う】14:07

写真③の男の子が木琴を運んでいる。段差があって困っていた。すると横にいた女の子が、当たり前前に片方を持ち上げて手伝ってくれた。写真④は、二人で持ち上げて定位置に木琴がセットされたところである。こんな行為が実に自然に恩を着せる様子もなく起こる。

授業研究会となると、教師は学習の結果から授業を振り返ることに慣れてしまって、日常の本当の素敵な行為を見落としているのかも知れない。







14:15 左写真「しんたグループ」大太鼓と小太鼓でリズムをとり、楽しんでいる。担当した楽器をみんなが思うままに楽しんでいるという感じである。右写真、「さくらグループ」実にいい雰囲気グループである。歌を口ずさみながら音の組み合わせを楽しんでいる。途中、楽器の担当を変えたり、楽器そのものを変えたり楽しみ方の工夫があった。



女の子だけで・・・が気になる。

14:17 「じゅんせいグループ」グループ活動になった時点で気になった。



しばらくすると左写真途中に教師のケアが入る何とか気持ちを持ち直して右写真である。3年生である。まだグループ活動において互いを気遣うまで至らない。



左「ゆういグループ」以下観察者より。合わせてみよう。なんか違う。もう1回。こんな風がいいんじゃない。「ちがい」の気づきを共有していた。右「とあグループ」一人の女の子がリーダーになってまとめていた。一人の男の子がグループに入っていたが全く違和感はなかった。途中で教師に聞いてもらい、笑顔がほころぶ。



「るなグループ」観察者より、とっても真面目なグループであった。仲良しグループの感じがした。授業者は今回のグループ編成について子どもたちの意思で決めさせたという。たしかに、共同体では「誰とでも」にこだわらないといけませんが、やはり子ども達に任せてしまうと、「気の合う仲間達」の集まりになってしまう。気の合う仲間

間に入れなかったり、選ばれなかったりで、子ども同士の関係に変な溝がでかかねない。グループの編成は教師の責任において男女混合で無作為で編成することを勧める。



写真⑤

14:30 音楽の授業でよく、教師の奏でるピアノの音楽で、動きが知らされる。写真⑤グループ活動から始めの形態に戻るところである。男の子は、歌っている時も教師の指示のメロディにもいつも体でリズムをとっていた。きっと音楽が大好きなんです。写真⑥、この子はなぜこんなにも急がなくてはいけなかったんだろう。



写真⑥

「何かあるか」「何かあった」がきつとある。

【授業研究会より】 玉城晋指導主事より

- 音を大切に授業を組み立てている。
- 音楽の授業でも「なぜそう思ったのか?」「～だから」など、鑑賞学習や、活動の中にも「学び合い」は設定できる。(個人の「感性」を学ぶである。)
- 教師で一つのカウントを取ってみんなを「つなく」こともできる。
- 太鼓一つからも、音のいろんなバリエーションや違いを感じることができる。



↑先生お疲れさんでした。久しぶりの授業拝見でした。明るく元気な子ども達です、ちょっとやんちゃな男の子や、静かな女の子、教室はほんとに多様な個性が協同する社会です。まだ3年生です。教師への依存がまだまだ大きいと思います。写真、授業終了後に先生の手伝いをする女の子たちです、大好きな先生の役に立ち、先生に認められたいのです。しっかり受け止めてあげてください。ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい